

オシ沼切通多摩ローム層模試露頭剥ぎ取り標本の 2025 年特別展示

内藤武*・齋藤紫保*

Surface Peel Specimens of the Tama Loam sampled in Oshinuma-Kiridoshi as Special Exhibition in 2025

Takeshi Naito* and Shiho Saito*

はじめに

川崎市青少年科学館（以下、科学館という）は、多摩区東生田にかつて存在したオシ沼切通し露頭の剥ぎ取り標本を地質資料として所有している（増淵,1991）。当該資料は劣化を防ぐために通常は科学館収蔵庫に保管されており、公開されていない（内藤ほか, 2025）。

一方で、同資料は 1991 年に宅地造成により消失した多摩ローム層の模試露頭の堆積相を現代に伝えるものとして 2023 年に川崎市地域文化財に指定されており、広く市民に公開、活用することは地質学普及の観点からも意義深い。そこで 2024 年に引き続き、2025 年も地質の日に合わせて 1 日に限定して当該資料の特別展示を実施することになった。

本稿では、特別展示の概要、関連行事について報告する。

展示概要

本展示は、「失われた地層を、科学館で見る」と題して、地質の日（5 月 10 日）に近い週末である 2025 年 5 月 11 日（日）10 時から 16 時に開催した（図 1）。科学館の地質分野の事業は自然科学班が担当するが、大学時代に火山地質学を専攻していたことから、内藤が今回の展示制作を主に担当した。

前年に実施した剥ぎ取り標本の特別公開では、会場は科学館学習室 1、2 を使用し、標本 1 枚のみ 2 時間に限定した公開であった。今回は実施時間長くしたことに加え、学習室 1、2、3 の 3 部屋を使用し会場規模を拡大した。標本全 7 本のうち層準が重複するものを除いた 5 本を展示し、総延長約 20m の地層を一度に観察できるものとなった。

展示した標本は、上位から順に資料番号が 5、6、7、3、4 の 5 本である。各標本の上下関係は内藤ほか（2025）による。当初は全標本を 1 本に並べて堆積物の規模を感じ

られることを構想したが、会場の広さに収まらないため、5、6、7 と 3、4 の 2 列に分割して展示することとなった（図 2）。各標本には、指標となるテフラが確認された。本展示に合わせて内藤が代表的なテフラにつ

特別展示
オシ沼切通し多摩ローム層
模試露頭剥ぎ取り標本 (川崎市地域文化財)

今年 5 点! 全長約 20m!

食べてはいけない
タマゴサンド 礫石

なめてはいけない
ゴマ塩 礫石

失われた地層を、
科学館で見る

2025年5月11日(日)
10:00-16:00

ギャラリートーク ①10:30 (各10分程度) ②13:30 ③15:30

ワークショップ
「マイ地層を作ろう」
①13:00~②15:00~
各回先着24名限定
2階実験室

観覧料: 無料

かわさき 雨と緑の科学館
〒214-0032 川崎市多摩区羽形7-1-2
TEL:044-922-4731
https://www.nature-kawasaki.jp/

アクセス
小田急線 向ヶ丘遊園駅より徒歩約15分
JR南武線 登戸駅より徒歩約25分

図 1. 今回の展示の告知ポスター



図 2. 展示会場に並べられた剥ぎ取り標本

*川崎市青少年科学館（かわさき宙と緑の科学館）Kawasaki Municipal Science Museum

いてのキャプションを作成した。

また、標本に触ることができないため、別途、触れる展示コーナーを設けた。これは2024年から2025年にかけて科学館の資料収集事業の一環として生田緑地内で採取された地層剥ぎ取り標本の一部を使用したものである。参加者が実際に触ることで各地層の構成物の粒径など、目視だけでは分からない特徴を感じることを狙った。

関連行事の開催

展示実施日にワークショップ「マイ地層を作ろう」を科学館実験室において開催した。科学館で教材用に所有している上総層群飯室層、ゴマシオ軽石 (GoP1)、立川ローム層などの実物資料を使い、参加者が自由に材料を選び、小瓶に入れて”マイ地層”を作ること、各地層の構成物の特徴や成り立ちを考えるとというものである (図 3)。13時からと15時からの2回、各回24名の定員で、先着順で整理券を配布したところいずれも満席となった。計画段階では小学生とその保護者の参加を想定していたが、大人のみ参加も多く、幅広い世代に人気となった。

ギャラリートークを10時10分、13時30分、15時30分の3回開催した。所要時間は10分程度とし、全ての回で内藤が解説を担当した (図 4)。主な解説内容としては剥ぎ取り標本が採取され地域文化財に登録されるまでの経緯、標本で確認できる主なテフラ、川崎も含む関東地方が過去のみならず今後も富士、箱根等の火山の影響を受ける地域であるという、私たちと火山との関わりについて言及した。解説担当の主観ではあるが、子供連れから、教員など地質に詳しい方の姿も見られ、幅広い年齢層、バックグ



図 3. ワークショップで作成した”マイ地層”

ラウンドを持った方に見学いただけたと感じている。今回の展示の来場者は913人であった。



図 4. ギャラリートークの様子

まとめ

本展示は、川崎市が位置する多摩丘陵の成り立ちを広く伝えるものとして、また、科学館の所有資料の価値や博物館活動の根幹である資料保存の意義を市内外に広く伝える機会として、意義深いものであった。一方で、剥ぎ取り標本は現状では科学館の収蔵庫で巻物状に保管している (内藤ほか, 2025) ため、展開、巻き直しに伴い、僅かであるが、粒子の脱落などが生じている。2024年に続いて2年連続での公開だったが、今回と同様の形式での公開を毎年実施することは資料の保存の観点からは難しい。

しかしながら、文化財は単に保存するのみならず活用されることが重要である。今後も枚数を限定するなど、実施の時期、手法を工夫し、何らかの形で公開することで、資料を前に来館者と対話しながら地質を学べるよう模索したい。

引用文献

- 増渕和夫, 1991. おし沼切り通しにおける地質剥離標本収集—川崎では初の本格的な地層剥離—. 川崎市青少年科学館紀要, (2) : 57.
- 内藤 武・服部隆博・本郷智子, 2025. オシ沼切通多摩ローム層剥ぎ取り標本の展示について. 川崎市青少年科学館紀要, (35) : 45-48.